

令和3年度池田市立図書館の運営に関する評価

令和4年12月

1 評価の目的

池田市立図書館では、図書館法第7条の3及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年文科省告示）に基づき、毎年度図書館として取り組むべき目標を定め、当該年度における取組み結果について評価を実施しています。その結果に基づき、図書館運営の改善を図っていきます。

2 評価の方法

(1) 自己評価

- ・評価項目は、基本的な利用に関する項目と「池田市立図書館運営基準」に基づく施策に関する項目で設定し、自己評価を行います。
- ・数値評価は目標値を対前年度比増に設定します。

(2) 外部評価

- ・図書館協議会において、当該年度の活動実績と自己評価について報告するとともに外部評価を実施します。

3 評価の基準

- A 計画どおり実施し、一定の成果があった。
- B 概ね計画どおりだが、課題が残った。
- C 計画に遅延があるなど不十分な点や課題が多かった。

(1) 基本的な利用に関する評価について

(年度末比較)

指標	令和3年度	令和2年度	達成状況	図書館評価	図書館協議会評価
年間来館者数	371,638人	381,107人	9,469人減	B	B
年間貸出人数	225,029人	223,311人	1,718人増	B	B
年間貸出冊数	616,498冊	630,278冊	13,780冊減	B	B
有効登録者数※	20,141人	21,615人	1,474人減	C	B

※個人利用者数

●自己評価説明

新型コロナウイルスのデルタ株による感染拡大が利用に大きく影響しており、4月25日から6月20日までの長期期間が緊急事態宣言を受けて臨時休館となった。図書館行事については、11月より再開したが、年末からオミクロン株の感染拡大を受け、1月末からは再度中止することとなった。館内利用についても、1時間の時間制限、座席の縮小、視聴覚資料の視聴制限については解除できないまま年度を終了することとなった。

前年度と比較したところ、両館合わせて来館者数、貸出冊数は減少傾向となったが、貸出人数は微増した。臨時休館期間中、手続きを簡易化したインターネットパスワードを活用して、予約本のみを受け取れる期間があったことから、一人が一度に借りる冊数が減少したことによる影響かと思われる。今年度は、石橋プラザが移転のため12月末で閉館したことで、年度末比較では減少しているが、1日あたりの来館者数、貸出人数、貸出冊数は前年度より微増していることから、コロナ禍においても利用が定着していることが窺える。

有効登録者数についても減少しており、本館の移転時に新規登録者が増加したが、2年続いたコロナ禍により、継続的な利用に結びつかなかったのではないかと推察される。

今後は、自動貸出機、自動返却機、予約棚のシステムを全館で整備したことから、インターネットを活用したセルフでの貸出手続きを更にPRし、利用者のプライバシー保護や貸出業務の効率化、新型コロナウイルスの感染防止対策に取り組みたい。

●図書館協議会の意見

- ・コロナ禍において、1日あたりの来館者数、貸出人数、貸出冊数は前年度より微増している点について、手軽にインターネット予約ができる方法等を取り入れた効果があったことが推察される。
- ・実際の数字に加えて割合を表記すると、減少している値が数%程度となることが分かり易くなる。コロナ禍でも可能な限りのサービスを提供されて、利用率も一定の水準を保たれていることから、協議会での評価はBとする。

●結果の分析及び改善策

- ・次回の評価では割合を表記し、比較が容易にできるよう工夫する。
- ・自動貸出機、自動返却機、予約棚のシステムの利用方法をPRし、インターネットからの予約やセルフでの予約本の受け取り等、非接触での利用を促進することにより、利用者のプライバシー保護と新型コロナウイルス感染症対策に取り組む。

(2) 「池田市立図書館運営基準」に基づく施策評価

① 多様な資料・情報の収集、整理、保存に努め、市民の読書活動を推進します。

※●は令和3年度重点目標

目 標	「池田市立図書館収集方針」に基づいた資料の収集			
具体的取組み	選書委員会の実施による適正な資料の収集、保存を行う			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書数 401,562 冊 (前年 401,500 冊) 寄贈書を活用し、新規受け入れ資料の充実を図るとともに、除籍により適正な蔵書管理に努めた。 新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館中に本館の分類配置を見直し、一般書コーナーを拡大することで開架冊数の増加を図った。本館開架冊数 136,551 冊 (前年 131,122 冊) 臨時休館中に、旧本館の蔵書を整理し、破損及び不適時等の蔵書について除籍処理を行った。(除籍資料数 13,523 点) 市民 1 人あたりの蔵書数は、前年度同様 3.9 冊となった。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	郷土資料・行政資料の充実			
具体的取組み	本館、石橋プラザ、それぞれの特性を活かした郷土資料や行政資料の充実、整理に努める			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 郷土資料冊数 本館 9,514 冊 石橋プラザ 1,576 冊 (前年 本館 9,879 冊 石橋プラザ 903 冊) 石橋図書館開館に向けて、本館から石橋へ蔵書を移動したことから、本館の蔵書数は減少したが、全館では 300 冊増加し、石橋図書館の郷土コーナーの充実に取り組んだ。 市内のハザードマップ設置棚を設け、季節展示で災害に関する資料を紹介した。また、本館の壁面ビジョンにハザードマップを掲示し、災害時に備えて市民への周知を図った。 問い合わせの多い「池田酒」「池田氏・池田城」の 2 テーマに関する調べ方案内を作成し、文献リストをホームページに公開した。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	石橋図書館開設に向けての蔵書整備及び棚づくり			
具体的取組み	●令和4年度の石橋新図書館開館に向けて、計画的に蔵書を整備する。			

取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・石橋図書館の開館準備として、石橋プラザの蔵書を移設するとともに、新規資料を購入し、蔵書の充実に努めた。蔵書数 石橋図書館 140,552 冊 (R4.3月末) (石橋プラザ 39,834 冊 (R3.3月末)) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館期間に旧本館の蔵書を整理し、石橋図書館へ移設する準備を行った。 ・石橋図書館の各フロアの棚に並べる分野を検討し、市民が利用しやすい棚づくりに取り組んだ。 ・ツナガリエ石橋内のダイバーシティセンターや地域子育て支援拠点と連携を図りながら、関連コーナーの設置に取り組んだ。 			
評価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・緊急事態宣言下の臨時休館を利用して、蔵書を適切に管理されていることから、全ての項目について、協議会での評価も図書館と同様のAとする。
- ・ツナガリエ石橋は、市の複合施設となることから、ダイバーシティセンターや地域子育て支援拠点との連携を深めるとともに、他市の事例も参考にして、より良いサービスを市民に提供してもらいたい。

◆結果の分析及び改善策

- ・ツナガリエ石橋では、複合施設としての機能を活かした行事や資料提供を他施設と連携して実施する。
- ・郷土資料を市民に親しんでもらえるよう展示等を実施し、コーナーの利用促進を図る。
- ・池田と石橋が連携して、それぞれ特色ある蔵書の充実に努める。

② 市民が必要とする資料や情報を提供することにより、「地域の情報拠点」として課題解決に役立つ図書館をめざします。

※●は令和3年度重点目標

目標	課題解決サービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●各種データベースの活用 ●「暮らしに役立つ情報講座」の開催 ・健康講座などの実施 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「暮らしに役立つ情報講座」や「健康講座」については新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催となり、次年度以降に実施予定で調整した。 ・新型コロナウイルス感染症関連コーナーに集める資料の分野を見直し、医療関係に絞った分野を収集、配架し、ブックリストを更新した。 ・医療情報の新聞記事ファイルに見出しをつけ、内容を分類して分かり易い提供方法を工夫した。 			
評価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	ホームページやSNSの活用			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館から、行事やおすすめ資料などの情報を積極的に発信する。 ●インターネット予約を促進する。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット予約件数 98,515 件（前年 92,811 件） 前年度と比較するとインターネットでの予約は5,704件増加した。 新型コロナウイルスによる予約本の受け渡しのみのサービス期間があったこともあり、来館せずに、インターネットで予約した資料を借りる利用者が多かったことが窺える。 ・OPAC 利用数 1,429,033 件（前年 1,319,168 件） 蔵書検索数も増加しており、インターネットで蔵書状況を調べる利用者の増加が窺える。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館のお知らせなど、日々変化する状況に応じた対策をホームページやTwitterで案内し、利用者への周知に努めた。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

目 標	広域利用・相互貸借の促進			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・7市3町広域利用及び川西市との相互利用の促進 ・相互貸借の活用 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・7市3町広域利用数 登録者 1,427 人（前年 1,293 人） 利用数 池田市→他市町住民 2,710 人 6,779 冊（前年 2,755 人 7,098 冊） 他市町→池田市民 9,115 人 29,584 冊（前年 7,703 人 25,916 冊） 他市町民の池田市利用については、登録者数は増加したが、貸出人数、貸出冊数ともに減少傾向となった。 ・川西市との相互利用 登録者 1,021 人（前年 890 人） 利用数 池田市→川西市民 1,911 人、4,782 冊（前年 2,008 人、4,929 冊） 川西市→池田市民 4,291 人、12,110 冊（前年 2,584 人、7,065 冊） 他市町民の池田市利用については、登録者数は増加したが、貸出人数、貸出冊数ともに減少傾向となった。 ・相互貸借数 借受 2,655 冊（前年 2,514 冊） 貸出 890 冊（前年 815 冊） 今年度は、臨時休館中以外は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、安定して相互貸借業務を進められたことから、借受・貸出ともに前年度を上回る結果となった。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

◆図書館協議会の意見

- ・新型コロナウイルス感染症により、行事や講座が開催出来なかった点については、今年度

は仕方なく、次年度以降に継続して行ってもらいたい。

- ・課題解決サービスの充実については、講座の開催以外はブックリストの発行等、積極的に取り組んでいたことから、協議会の評価はAとする。
- ・広域利用で、池田市民の他市町利用は増加しているが、他市町民の池田市利用が減少している理由について、原因の分析や実態把握が必要ではないか。
- ・広域利用の評価について、利用回数だけでは判断できないのではないか。

◆結果の分析及び改善策

- ・新型コロナウイルス感染症により開催出来なかった講座等については、次年度以降開催に向けて調整する。
- ・広域利用については、池田市は2館しかないが、他市の図書館は館数が多い自治体もあり、他の目的で訪れた先で利用する場合も多いと思われる。利用回数に加えて評価のための指標等の検討が必要である。

③ 子どもたちの豊かな「学び」を応援し、学校、家庭、地域等と連携して子ども読書活動の推進を図ります。

※●は令和3年度重点目標

目 標	子どもへの読書機会の提供			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・児童書の充実 ・おはなし会の開催 ・季節の展示等の実施 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童書冊数 130,299 冊（前年 131,229 冊） 書庫の児童書を整理し、破損及び不適時等の蔵書を除籍した結果、1,000 冊の減少となったが、開架冊数は全館で 60,675 冊（前年 53,534 冊）となり、7,141 冊の増加となった。 ・おはなし会実施回数 22 回 241 人（前年 20 回 220 人） 新型コロナウイルスの感染防止策として、人数を制限し、予約制で開催した。11 月より再開したが、12 月中旬より感染拡大のため中止となった。 ・短い滞在時間で本を選ぶ手助けとなるよう、各種展示を実施した。本館 25 回（前年 22 回） ・前年度に引き続き、本館では、年末年始に「おたのしみ福袋」と題して、図書館司書がおすすめる本を年齢別にテーマをそえて袋詰めにして貸出し、新たな本と出会う機会を提供した。今年度は一般書と児童書の福袋をそれぞれのコーナーに配置して、児童コーナーへ行く利用者が、手に取りやすいよう工夫した。また、福袋の残数を Twitter で発信し、情報提供を行った。62 セット（内児童書 39 セット）を貸し出した。 ・石橋プラザでは、「夏の福袋」と題して、本館と同様の福袋を作成し、16 セット（内児童書 13 セット）を貸し出した。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	調べ案内・ブックリストの作成			
具体的取組み	●子どもが調べたい内容や借りたい資料を容易に探せる工夫をする。			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ案内については、今年度は大人向けを作成したことから、キッズ版は次年度以降に作成することとなった。 ・テーマごとに読みたい本が探せるようブックリストを発行し、配布した。本館3冊、プラザ1冊（前年本館2冊、プラザ1冊） 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	B

目 標	ヤングアダルトサービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・10'sコーナーの活性化 ・10'sコーナー通信の発行 ・ブックリストの配布 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示コーナーでは、今話題のテーマを取り上げ、SDGsに関する展示や「平和について考える」等、10代に向けて分かり易く説明している資料を選書し、展示した。 ・進路選択や職業選択に役立つ資料の充実を図った。 ・市内小学生が作成した多言語に翻訳した絵本を、原本とともに児童コーナーと10'sコーナーの間に展示し、多文化への理解を深めるきっかけづくりに取り組んだ。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	学校図書館との連携促進			
具体的取組み	学校司書と連携し、調べ学習用資料などを提供する。			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度まではFAXのみで受付していた学校との連絡を、メールでも受け付けられるように変更し、学校図書館からのレファレンスや調べ学習用の資料収集、本の延長等を行った。また、授業で使用する資料や生徒からの予約本は庁内連絡便で配送するなど、迅速な対応に努めた。 ・学校図書館教育研修会を図書館で開催し、学校司書のニーズの把握及び資料提供に役立てた。 ・年4回実施している学校への団体貸出用の配本が今年度は、緊急事態宣言及び石橋図書館への児童書移設の影響を受け、2回の実施となった。 ・前年度同様、図書館の除籍資料の中から活用できる資料を学校司書に選択して 			

	もらい、学校図書館での有効活用を図った。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	団体貸出しの拡充			
具体的取組み	学校や文庫、地域コミュニティなどへの団体貸出しを実施			
取組み結果	<p>・団体貸出冊数 21 団体 27,807 冊（前年 23 団体 36,038 冊）</p> <p>緊急事態宣言の影響により、配本回数が減少したことや、石橋図書館への団体貸出用資料移設のための箱詰め作業により、選書が実施出来なかったことから、貸出冊数が減少した。</p>			
評 価	図書館	C	図書館協議会	B

目 標	見学や職場体験の受入れ			
具体的取組み	小学校の見学や中学校の体験学習の受入れを実施			
取組み結果	<p>・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校見学及び体験学習は中止となった。</p> <p>学校見学については、職員が学校に出向く出前授業の形式で、写真や映像を交えて分かり易く図書館の利用方法を児童に説明した。数校から依頼があったが、緊急事態宣言の影響により、実施出来たのは2校のみとなった。</p> <p>職場体験については、例年中学2年生を受け入れているが、今年度は、職員が学校に出向き、図書館員の仕事について講演し、インタビューを受ける形式で実施した。来年度以降実施する場合は、感染防止対策を講じて実施方法を検討したい。</p>			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・コロナ禍での行事開催は難しいことから、それ以外の分野で評価をした方が良いのではないかと。
- ・おたのしみ袋はとても面白い企画で、新たな本との出会いができることから、今後も継続

して実施してもらいたい。

- ・一人1台のタブレットを持ち、教材もデータで管理することが多くなっていることから、図書館で作成した「調べ案内」等を学校からインターネットを通じてアクセスできるように整備すれば、子どもがすぐに利用できるのではないか。
- ・パワーポイントと音声を組み合わせて動画を作成すると、調べ案内に活用できるのではないか。
- ・学校見学や団体貸出については、コロナ禍で実施が出来なかったが、代替えサービスを実施する等、積極的に活動されていた点を評価したい。
- ・協議会の評価としては、「子どもへの読書機会の提供」「ヤングアダルトサービスの充実」「学校図書館との連携促進」「見学や職場体験の受入れ」についてはA、「団体貸出しの拡充」についてはBとする。

◆結果の分析及び改善策

- ・コロナ禍で実施できなかったサービスについては、今後再開できるように準備する。
- ・学校見学用に作成した資料を、今後は他の学年や中学生を対象に出前授業等に活用できるよう創意工夫する。
- ・団体貸出については、今後は石橋図書館で実施することから、石橋図書館の団体用図書設置棚の整備に努めるとともに、各団体や学校と貸出しや配送方法の打合せ等を実施する。
- ・ヤングアダルトサービスについては、10's コーナー通信の発行やホームページへのブックリスト掲載に取り組み、10代の読書活動推進に努める。

④ 図書館ボランティアとの協力を深めるとともに、市民同士の交流の機会・場を提供し、市民がわくわくしながら集い、出会う、楽しい図書館をめざします。

※●は令和3年度重点目標

目 標	ボランティアとの協働事業の実施			
具体的取組み	●図書館ボランティアとの連携をさらに強化する。			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している「図書館まつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催となった。 ・年間ボランティア参加人数 920人（前年684人） 図書館行事に関しては、新型コロナウイルスの影響によりほとんど開催出来なかったことから、参加人数は減少したが、書架整理ボランティアやボランティア団体の研修等は、緊急事態宣言発令時以外は感染防止対策を講じて活動を実施した。			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	各種行事の開催			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な年齢及び対象に応じた行事を他機関等と連携して開催し、図書館の活性化に努めるとともに、市民同士が交流できる機会を提供する ・市民グループ等の学習、発表の機会、場を提供する。 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の歯科クリニックと連携した行事「歯医者さんの子育て応援講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は開催出来なかったことから、来年度の開催に向けて調整した。(前年 本館1回、2人) ・年間行事開催回数 32回(前年 29回) ・行事開催については、申込制による人数制限や換気、座席の間隔を広くする等の感染防止対策を講じて開催した。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	図書館協議会の充実			
具体的取組み	多様化する図書館へのニーズに対応するため、図書館協議会の充実に努め、利用者サービスの向上を図る			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・3回開催。令和元年度図書館運営評価外部評価を実施し、図書館協議会による評価を決定した。 ・石橋新図書館の進捗状況について報告・審議を実施した。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	B

◆図書館協議会の意見

- ・図書館まつりは開催できなかったが、書架整理のボランティアや各団体の研修等は活発にされており、人数としては前年度より増加していることから、「ボランティアとの協働事業の実施」の協議会の評価はAとする。
- ・各種行事がコロナ禍で開催できなかったとのことだが、開催できるものについては、対策を講じて実施していることから、協議会の評価はAとする。
- ・図書館協議会の充実については、会議自体は順調に開催できており審議も行っているが、欠席の委員が多いことが気になる点から、協議会の評価はBとする。
- ・図書館協議会の項目に、協議会からの意見や要望を受けて実現・改善した内容を評価に組み込んでもらいたい。

◆結果の分析及び改善策

- ・コロナ禍では大規模な催しは実施が難しいが、小規模でもしっかりと感染対策を講じて安全・安心に参加してもらえるように努める。
- ・「図書館まつり」に関しては、コロナ禍でも実施できる内容を各ボランティアと連携しながら検討する。
- ・「図書館協議会の充実」の項目に、前回の評価を受けて実施した内容を組み込む。

⑤ 高齢・障がいなどの理由により図書館利用が困難な市民へのサービス拡充や情報提供の格差解消に努め、誰にでもやさしい図書館をめざします。

目 標	障がい者支援資料の充実			
具体的取組み	大活字本やデージー図書等の充実を図る			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者支援資料点数 4,416 点（前年 4,325 点） 大活字本やデージー図書等、92 点の増加となった。 ・石橋図書館 3 階に大活字本を配架した「いきいきライフコーナー」を設置した。 ・多言語電子絵本文庫等、マルチメディアデージーの充実に努めた。（マルチメディアデージー点数 188 点（前年 182 点）） ・LLブックの所蔵目録を発行し、入り口付近に設けた障がい者支援資料を紹介する特設コーナーを設置した。 ・未蔵書のものについては、サピエ図書館のネットワークを活用し、デージー図書 765 点を利用者に提供した。（前年 1,032 点） 利用を休止している利用者があった影響で、267 点減少した。 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	多言語サービスの充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語おはなし会の開催 ・洋書コーナーの充実 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語おはなし会は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催となり、来年度開催の方向で国際交流センターと調整した。 ・本館の洋書コーナーの蔵書増加に努めるとともに、石橋図書館に洋書コーナーを新設した。洋書冊数 1,348 冊（前年 1,237 冊） ・英語多読コーナーの充実に努めた。英語多読本冊数 169 冊（前年 127 冊） 			
評 価	図書館	B	図書館協議会	A

目 標	図書館への来館が困難な市民へのサービス充実			
具体的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービスの拡充 ・移動図書館の巡回 			
取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> ・宅配サービス貸出冊数 49 冊（前年 69 冊） 利用を休止している利用者の影響で、貸出冊数は減少した。 ・移動図書館利用数 2,035 人 7,991 冊（前年 1,659 人 6,522 冊） 年間の利用数が増加し、昨年度に引き続き、旧本館に近い新設のアルビス五月丘の利用が 362 人、1,487 冊（前年 315 人、1,334 冊）となり、年間最多利用ステーションとなった。 ・老朽化していた移動図書館車を、コミュニティ助成事業を活用して新車両に更新し、図書館への来館が困難な市民へのサービスの継続が可能となった。 			
評 価	図書館	A	図書館協議会	A

◆図書館協議会の意見

- ・障がい者支援資料の利用者数は減少しているが、蔵書数が増加していることから「障がい者支援資料の充実」という観点では達成できていることから、協議会の評価はAとする。
- ・障がい者支援資料の利用対象となる児童・生徒に更にPRしてもらいたい。
- ・多言語サービスの充実については、石橋図書館に洋書コーナーを設置された点や、英語多読コーナーの冊数が増加している点から、協議会の評価はAとする。
- ・移動図書館車の更新は、図書館が利用しにくい地域の方々にとってサービスの継続が保証される大きなメリットとなった。更なるサービス拡大を期待する。

◆結果の分析及び改善策

- ・障がい者支援資料の利用者への周知方法を工夫する。
- ・石橋図書館に設置した洋書コーナーの充実に努めるとともに、ダイバーシティセンターと連携して多言語おはなし会等の行事を開催し、多文化への理解を深める機会を提供する。
- ・移動図書館車を、従来より小型化して更新したことから、より細かなステーションの配置を検討するとともに、定例の巡回以外にも市内の幼稚園や保育施設等へ派遣し、幼少期からの図書館利用体験を通じて、図書館の利用促進を図る。
- ・移動図書館ステーションでのおはなし会実施等により、市民に移動図書館車の存在をPRし、利用促進に努める。